



準決勝:イギリス対久富チーム

第4クオーター

Hand layout for Bd: 49, NORTH, WEST, EAST, SOUTH.

Open Room and Closed Room bidding results for Bd: 49.

全員が仲良く2ダウン。どこでダブルがかかっても不思議ではなかったが、誰もまだ切羽詰まっていなかったようだ。双方のテーブルでプラス100を取ったイギリスが5IMPを獲得して再び129-128と逆転。イギリスとしてはここで試合終了としたい所だが、残るは15ボード。

Hand layout for Bd: 52, NORTH, WEST, EAST, SOUTH.

Open Room and Closed Room bidding results for Bd: 52.

オープンルームでは、ディフェンダーが早い段階でスペードをラフしたが問題もなく3メイク、プラス140。クローズドルームでは寺本がハケット兄弟を3♥まで押し上げ、受け身のディフェンスにまわって1ダウン、マイナス100。久富チームに6IMP、135-130。135-131で迎えた54番ボードでイギリスは手痛い失点。

Hand layout for Bd: 54, NORTH, WEST, EAST, SOUTH.

Open Room and Closed Room bidding results for Bd: 54.

クローズドルームではハケット兄弟のプリエンティブ・ビッドをもってしても寺本の4♣を邪魔することはできなかった。案にメイクすると考えても不思議ではなく、実際のプレイは4♦Qに向けてダイヤモンドをリードしてプラス420を獲得した。一方のテーブルではハケットが頑張らすぎた。アームストロングは♠Aを示し、5♣のビッドでアナーが不足していることを伝えている。ダブルがかかったのは不運だったかもしれない。3ダウン、マイナス800。久富チームに16IMP、151-131とリードを広げる。

Hand layout for Bd: 55, NORTH, WEST, EAST, SOUTH.

Open Room and Closed Room bidding results for Bd: 55.

Sがパートナーの1♥にレスポンスすべきかどうかは編集者一同の意見が分かれる所である。我らが剣士達も同様だったらしい。阿部は静かに1♥をプレイしてマイナス200。ジェイン・ハケットは2♦でプラス90を獲得したが、これは久富が♠Aのアンダーリードを選び、寺本がこれに8をプレイしたからである。イギリスに7IMP、138-151。

Hand layout for Bd: 56, NORTH, WEST, EAST, SOUTH.

Open Room and Closed Room bidding results for Bd: 56.

双方のNSが6♠をビッド。♦Kのベストリードでもメイクする可能性があるスラムである。ディクレアラーは2人も簡単なラインのプレイは選択しなかった(ダミーでクラブをラフし、♠Kを取り、ハートでダイヤモンドをディスクード)。ラスト・マノッポが大きく得点するチャンスを提供した。W(マノッポ)はコンベンショナル・ビッドである2NTにダブルをかけてハンドの全般的な強さを示し、Eが3♥にダブルをかけた。♠Aをリード、♦Jにシフトするとホールド。ダイヤモンドを繰って♦Aに負け、SもダイヤモンドをプレイしてEの♦Qに負け。トランプのローカードをSが♥で勝ち(Wは♠をプレイ)、最後のダイヤモンドをプレイするとWはスペードをディスクード、Eは♠Aをキャッシュし、Wがスペードリターンをラフしたが、Sが♥Qをリードすると♥10がたたき落とされず。3ダウン、マイナス800。インドネシアに12IMP、14-0。

Hand layout for Bd: 60, NORTH, WEST, EAST, SOUTH.

Open Room and Closed Room bidding results for Bd: 60.

比較的確やかに3ボードのプレイが進み、イギリスが2IMPを追加して140-165となった所でイギリスチームに一糸の光がさす。

Hand layout for Bd: 63, NORTH, WEST, EAST, SOUTH.

Open Room and Closed Room bidding results for Bd: 63.

イギリスは結束力の強いチームである。2ボードごとにチームで1つのスーツを選択し、4人がそのスーツのプレイに全力を傾ける。このボードもなかなかドラマチックだが、彼らの仲間内では不思議なことではないらしい。ジェイン・ハケットは4♣で華麗なプレイを見せてくれたが無念の2ダウン、マイナス200。読者はオークションの意味を理解しただろうか?目を閉じて全神経を集中すれば、もししたら理解できるかもしれない。アームストロングも4♣で華麗なプレイを披露する予定だったが、西の方角に見えるはひんハケット、捕らわれの乙女を救出すべく狼狽と登場。アームストロングはプレイの腕を披露できずに終わった。ハバのビッドを偉大な才能の発露と取るか、それとも?可哀想なハバはダウンしてマイナス1400、久富チームは17IMPを獲得して仕上げに入る。ところでお気づきかどうかは、実は3NTがメイクする。

久富チームは第4セッションを54-21で勝ち、182-145の素晴らしい成績で決勝戦進出を決めた。ちなみに決勝戦の相手は台湾に紙一重の差で勝ったインドネシア・チームである。

NEC杯決勝-新宿の決闘

インドネシアが1IMPのキャリーオーバーつきで決勝戦開始。準決勝が何らかの未来を暗示しているとするれば、燃える久富チームに勝つためにはこの1IMPが重要とならぬまい。

1番ボードは同じ2♥のコントラクトでマノッポが寺本より1トリック多く勝ち、インドネシアのIMPはとりあえず2に倍増。

Hand layout for Bd: 2, NORTH, WEST, EAST, SOUTH.

Open Room and Closed Room bidding results for Bd: 2.

EWのハンドを持って3NTをビッド&メイクする気がないなら、オープンルームで寺本・久富が獲得した110より良いスコアを取ることが合理的であり、かつ正しい。クローズドルームではSの原がフィットのないハートを3レベルでビッド、ラスト・マノッポが大きく得点するチャンスを提供した。W(マノッポ)はコンベンショナル・ビッドである2NTにダブルをかけてハンドの全般的な強さを示し、Eが3♥にダブルをかけた。♠Aをリード、♦Jにシフトするとホールド。ダイヤモンドを繰って♦Aに負け、SもダイヤモンドをプレイしてEの♦Qに負け。トランプのローカードをSが♥で勝ち(Wは♠をプレイ)、最後のダイヤモンドをプレイするとWはスペードをディスクード、Eは♠Aをキャッシュし、Wがスペードリターンをラフしたが、Sが♥Qをリードすると♥10がたたき落とされず。3ダウン、マイナス800。インドネシアに12IMP、14-0。

Hand layout for Bd: 4, NORTH, WEST, EAST, SOUTH.

Open Room and Closed Room bidding results for Bd: 4.

オープンルームではNが1♦にバスをしないかは定かではないが、Nは2人もそれぞれ的美学を持っていたらしい。

オープニングではN(田多井)がダイヤモンドダブルをかけた結果、コントラクトは3NTまで駆け上がり、ダイヤモンドリードにWが10、Nが♥をプレイしたが、結果はマイナス300。クローズドルームでは田多井の苦しいオーバーコールがコントラクトを2♥に追い込んだが、EのダイヤモンドリードをWがリードして勝ち、ダイヤモンドが続いたのでチャンス。♦Kを勝ってダイヤモンドラフ、ダミーからクラブのローカードをプレイして好調な出だしである。Wは♠Kを勝って♣Qに打ち込むが、♥A、♥K、クラブとプレイし、2メイクでプラス110。久富チームに9IMP、9-15。

Hand layout for Bd: 5, NORTH, WEST, EAST, SOUTH.

Open Room and Closed Room bidding results for Bd: 5.

田多井のプリエンティブ2♣オープンには珍しくEWを完全にシャットアウトする効果があった。Eは♠Kをリードし、トランプにシフト。NはAであがり、ハートをプレイしたが、Wが♥Aを勝って♥K、ハートと続けた。Nはダミーで勝ってクラブをラフし、ダイヤモンドをプレイするという選択技があったが、ハンドから勝ち、♦10でフィネスをしついに負けた。ダミーにはエントリーが1つしか残っていないので、Wは安心してクラブをプレイ、Nはこれをラフ、♥K、ハートラフ、♦Qを流したがNに負けて1ダウン、マイナス100。

一方のテーブルではNが1度バスをした後に参加。Sが早めに4♣でサクリファイシ、金持ちE(久富)にペナルティダブルをかけられる。Eが♠Kをリードした所までは同じだったが、ダミーの長いクラブへのエントリーをつぶすために♥6にシフト、Wが勝ってハートを続けたがNが♥で勝ち、ダミーからクラブをディスクード、Nは♠QをKに負け、ダイヤモンドリターンをAで勝って♥Kでクラブをラフ。ダイヤモンドで10トリックを確保してプラス790。インドネシアに13IMP、28-9。

Hand layout for Bd: 6, NORTH, WEST, EAST, SOUTH.

Open Room and Closed Room bidding results for Bd: 6.

同意しない人もいるだろうが、このボードのEWのビッドはかなり難しい。5♦をビッドした寺本・久富のオークションに特に欠陥があったわけではないが、♣のナチュラルなオープニング・リードをEがダックした瞬間に2ダウンした。クラブ、ダイヤモンドの各1トリックとハートの2トリックを負け、マイナス200。クローズドルームではW(マノッポ)が最後の最後に3NTをビッドし、3NTが開通している場合はEが♥Aをいふことを期待した(弱ハスペードとシングルトッククラブ等)。Nがクラブをリードし、Qの勝ち。Nは♦Kで勝った時にクラブを続けるが、Wはスペードをフィネスして10トリックを勝ち、プラス630。インドネシアに13IMP、41-9。

Hand layout for Bd: 15, NORTH, WEST, EAST, SOUTH.

Open Room and Closed Room bidding results for Bd: 15.

オープンルームではN(田多井)のウィーク1NTをきいてEWが狩りに出かける支度を始めた。トランプの枚数は少ないが2♥にダブル。Wは♠Jをリード、Eが♥で勝ってクォンパの2巡目で♣Qに打ち込む。Sは♥10でフィネスをしてKに負け、Eはスペードを隠してCNの♠Aに再び打ち込む。Sはトランプを勝ってダイヤモンドをリードしたが、WがAで勝ち、最後のクラブをラフし、遂にスペードをプレイする時が来たが、どうプレイしてもSの7トリック目は確保されている。1ダウン、マイナス200。インドネシアに6IMP。第1セッションはインドネシアが53-12、1IMPのキャリーオーバーを足すと54-12と大きくリードして終了。

今日はこちらまで、明日のプレティンでこのレポートを完結させよう。